



「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日日に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っている。

発行：誇りと夢・まちづくり日新広報部会
文京5-1-8 日新公民館
発行日：2010年12月22日

日新
荷に日に新たに
日日新 日々に新たに
又日新 又日に新たなり
出典 「大学」

ゆめ
にっしん



黒斑があり装飾も施される



箱書き

日新の宝 上里の「つぼ」

日新地区のお宝、上里の「つぼ」(現物)を一目見たいと福井市郷土歴史博物館を訪ねた。

驚いた。予想をはるかに超えて繊細で、色白で、美しい。新しい物にさえ見える。学芸員の方の説明によると、紛れもなく弥生土器でありその特徴である黒斑を有し刷毛目があり、首部はくびれている。色白なのは、粘土の質がかなり良いからとのこと。また、このような完全な形で見つかるのは非常に珍しいらしい。火にかけたあともないことから、おそらく何かの儀式用に使用されたのではないか・・・?とのことだった。

この「つぼ」は、昭和3年稲木家の水田(文京5丁目現在の西藤公園北側)から出土したもので、昭和59年故昭氏の遺志により、静子夫人から福井市に寄贈された。当時の新聞のコピーも見せて頂いた。「つぼ」を眺めていると、弥生の人々の暮らしにまで思いは遡っていくそうだ。(友田・村上)

* 撮影してきた写真は1月末日まで公民館にて展示中

第35回敬老会

9月20日に、第35回日新地区敬老会が開催されました。今年の対象者(75歳以上 昭和10年12月31日以前に生まれた方)は649名で、このうち190名の方に会場の日新小学校に足を運んでいただきました。

おじいちゃん、おばあちゃん、喜寿(77歳)、米寿(88歳)と言わず、白寿(99歳)、珍寿(111歳以上)まで、いつまでもお元気でいて下さいね。



新自治会誕生 !!

—上里宿舎の変遷—

上里宿舎は、昭和26年に木造平屋の大学宿舎が底喰川沿いに建設され、当初は文部省(現文部科学省)の管轄で運営されていました。

その後、国家公務員宿舎として、昭和39年に旧1号棟が建設され、管轄が大蔵省(現財務省)に移りました。40年に旧2号棟、55年に3号棟、56年に5号棟、57年に4号棟が建設され、計94戸が上里大学自治会を組織していました。しかし、平成18年3月に旧1号棟が閉舎、21年3月には旧2号棟が閉舎となり、昨年取り壊しとなりました。上里大学自治会はその都度規模が縮小され、現在は3、4、5号棟、計46戸により組織されています。なお、16年4月、福井大学の国立大学法人化以来、大学教職員の新規入居が停止となり、大学関係の住民は徐々に減少しています。

今年完成した白い外観の新1号棟(44戸)は4月から、2号棟(47戸)は6月から入居が始まりました。

1号棟は、「上里宿舎1号棟住宅会自治会」を発足させ、9月に文里自治会連合会、及び日新自治会連合会に加入しています。(庄司)



左が新1号棟

わがまち匠



書道家(日本墨書会副理事長)

和田啓崖さん(57) 乾徳2

昨年、日展に初入選されたすごい方、本物の芸術家ということで、ドキドキしながらお話を伺いました。

短大の卒業を間近に控えていた20歳のころ友人に誘われ、手習いの一つとして軽い気持ちで書道を始められたという。元来、染色や工芸といった伝統芸術が好きなおもあって、自然に書の世界に入られたようです。故西山秋崖先生に師事。現在は市内6ヶ所にて書道教室を開いておられます。

「書は体なり」男性的でダイナミックな作品は、まるで啓崖さんの大らかなお人柄そのものようです。「好きなことを続けてこられて幸せです。」と啓崖さん。「学校の授業で書道の時間が少なくなっているのが気になります。日本のすばらしい伝統芸術を伝えてゆくため、私自身も力を尽くしたいと思っています。」とも。

凛とした佇まいに真直ぐな生き方が表れているようで、思わず襟を正しました。(鈴木)



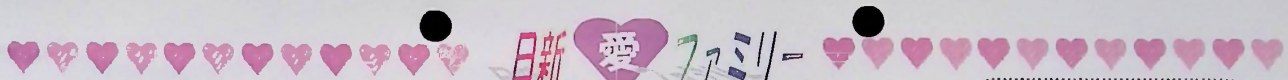
第41回日展(2009) 李白詩 和田啓崖

日新春秋

▼「暇になっただろう、広報部の仕事を手伝え!」と、この活動に「強制取用」されたのは3年前。いまは先輩委員と一つになり、少しでもよいものをと、知恵をしぼって編集作業を続けている。▼一つのことを探り求めていくと壁に突き当たり、新しい課題へと向かう。また探っていくと未知のことが出て来るが、探求の面白さを知る。が「脳足りん」を感じることは多々。▼「乾徳」の由来調べでは「易経」を初めてひもどいた。越前国絵図をパソコンで開き、掲載するため福井県文書館に足を運んだ。松平文庫のありがたさを知り、福井藩を身近に感じた。▼私の生涯学習は70代の今始まった感じだ。が最後の活動がいつまで続くやら、の不安が常に付きまとう。▼足のしびれが始まり、お医者さんに通いながらも「マ、健康」。▼この活動に「強制取用」されても今は楽しみ、張り合いを持っている。▼この1年間が終わろうとしている。新春も皆さんと一緒に活動したい。

半可通夫





文里地区
下木家
我が家に新しい家族(2匹)がふえました。
(母 撮影)



宮島地区 川端家
我が家はスポーツ好き4人家族。お兄ちゃん(小5)は春山タートルズ、妹(小2)は日新ガールズで元気一杯バスケットボールを楽しんで&頑張っています。チームワークを大切に活躍してくれることを願って、我が家もチームワークで頑張るぞ!! オーツ!!

誇りと夢・わがまち創造事業

交通部会

10月初旬に「コミュニティバス事業アンケート」を実施しました。多くの方の賛同を得て、313人から回答を頂きました。
地区を回るバスがあったら良い、地区の活性化につながる、あれば利用するなど積極的の回答が多数を占めました。また、65歳以上では、約半数が公共交通機関を利用している現状も伺えます。また、一方では、現況の「スマイルバス」のように、福井駅前からのバスを希望する意見もあります。「コミュニティバス事業」の趣旨としては、日新地区及び近隣地区を巡回するもので学生、児童、高齢者などの運転できない人(運転しない人)の足として、買物、病院、公共機関、学校などへの利便性を考えています。今後は、コミュニティバスの運行系統、運行時間、運行本数、バス停留所、運賃などを考え合わせ、地区のみなさまにより利用しやすい、長く利用できる「コミュニティバス」であるよう検討を重ねていきます。

環境部会

環境部会では、このほど「高齢化時代の電車試乗と万葉の心に触れる」と銘打って富山方面で館外研修を実施しました。
高齢化が進むこの社会、特に交通弱者に配慮した超低床電車を体験試乗。電車は徹底したバリアフリーで、ゆったりとした車内でした。ただ低床のため、車輪の格納部分が車内に出ていて、シートが高めなのが気になりました。
終点の岩瀬浜は、その昔北前船船間屋で豪華を極めたところ。豪商『森家』では、話巧みなガイドさんによる濃密な案内に、予定の時間があつという間に過ぎました。
午後は歴史を訪ねて・・・大伴家持ゆかりの地や、国の重要文化財指定の古刹勝興寺を訪ねました。この寺は京都の公家と深い関わりがあったといわれ、また本願寺派の触頭(ふれがしら)として絶大な権勢を誇ったそうです。
帰りのバスで参加者にアンケートをお願いしたところ「内容が良かった。今後も是非このような研修を企画してほしい」との声を頂きました。



文化部会

築城430年の城下町大野へ電車で研修に
11月14日8時に公民館に集合し、えちぜん鉄道、越美北線に乗って大野へ。27名が参加した。七間朝市→御清水→昼食(名水そば)→結(ゆい)ステーション→亀山城→武家屋敷内山家などを見学し、午後4時過ぎ全員無事に帰福した。



トビックス

創立20周年 ありがとう、これからもがんばります!
— 日新ガールズミニバスケットボールスポーツ少年団 —

12月11日(土)、創立20周年を記念して「海の子、山の子、日新っ子杯」と称し県内外8チームが西体育館に集結し、「日新カップ」が盛大に開催されました。「バスケが大好き!」。このたった一つの思いが、橋本団長、浅野監督・コーチご夫妻ら指導者の下、卒団児約150名から現役団員27名まで20年間に亘ってチームを継続するバトンとなりました。ここに至るまでは勿論、団員減少によるチーム存続の危機もありましたが、指導者らの「バスケを楽しむ」ことを何より大切にするという一貫した指導により、現在も週4回、団員たちはバスケに汗を流しています。来年1月8日にはアカデミアホテルにて20周年記念交流祝賀会(式典)も開催の予定です。発団以来初めてのカップ戦と祝賀会の開催に至るまでには、地域の方々をはじめ、本当に多くの方々のご協力を得ることができました。心より感謝すると共に、今後とも日新ガールズが子供たちの輝ける場所として存続していけますよう、応援よろしくお願い致します。
★日新ガールズ新団員募集中★
日新ガールズに入っていっしょにバスケを楽しもう♪



底喰川 その3

— 底喰川と美しい地域づくり — 平成10年度

汚れた底喰川を「ふれあいウォーク」で観察したからって、底喰川がきれいになるものではない。底喰川を多面的に理解してもらうことがまず一番、と「底喰川と美しい地域づくり」を企画し、参加者を募った。そのプログラムは
・今、なぜ底喰川? ・底喰川昔物語 ・先進地区、香流川に学ぶ
・底喰川源流を訪ねて ・クリーンアップ大作戦 ・底喰川の現状と改修計画 ・底喰川フォーラム
この内容については追って紹介したい。
私たちは常に自分たちが生活している地域の現代課題を見つめ、住民に深く知ってもらい、住民と一つになって課題解決に取り組むことが大切である。このためには地区運営委員さんの協力が絶対的に必要である。この事業には、泉辰男、岩本辰夫、前田鯉、前側明夫、松井康行、森坂克彦、吉田秀直、久野葛枝、増田節子各氏の協力を仰いだ。
また福井市の公民館主事による歴史部会でもご検討をいただいた。



改修前の底喰川(現公民館前)

広報部会

ゆめ・にっしん次号(3月発行)に掲載の、「愛ファミリー」のご家族を募集します。自薦・他薦どちらもOK!! お気に入りの1枚をぜひ公民館へお持ちください。来年もよろしくお祈りします。

